

平成 18 年度 事業 報告

(平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)

I. 事業 の 概 況

当財団は、昭和 42 年 8 月設立以来、わが国の健康上の課題である「生活習慣病」に関する事業を一貫して展開している。

平成 18 年度も三本の柱である「医学研究助成」「生活習慣病集団検診」「小冊子刊行・頒布」事業の更なる効率化と予算の有効活用に注力して事業活動を行った。

1. 医学研究助成事業

医学者を対象とする医学研究助成事業は第 39 回を迎え、66 件の推薦応募の中から 20 研究に対して助成を行った。第 15 回特別助成の 3 研究と併せて、総額 2,450 万円の助成金を贈呈した。

2. 検 診 事 業

検診事業は、7 項目（胸部、循環器、血液、眼底、胃部、便、VDT）の集団検診を実施。検診先・受診者減があり、年間延受診者数は 48,473 名で 2,996 名減の 94.2% となった。

検診業務開始以来の累計延受診者は、1,611,128 名となった。

3. 小冊子刊行事業

生活習慣病ガイド・介護ガイドは、改訂版 2 種類、増刷 12 種類を刊行した。

年間頒布数は 23,919 冊であり、昭和 43 年 7 月刊行以来の累計頒布数は約 418 万冊となった。

平成 18 年度の各事業の実施状況は、次頁以下のとおりである。

1. 医学研究助成

(1) 第39回「医学研究助成」

66件の推薦応募があり、選考委員会を経て20研究を決定、平成18年9月7日に贈呈式を行い(霞が関東京會館)、1研究につき100万円、総額2,000万円の助成金を贈呈した。その内容は、後記の医学研究助成【別表】のとおりである。

(2) 第15回「医学研究特別助成」

第37回研究助成(平成16年度)入選者の研究報告19件を対象とし、選考委員会を経て3研究を決定、第39回医学研究助成と同日の贈呈式で、1研究につき150万円、総額450万円の助成金を贈呈した。その内容は、後記の医学研究特別助成【別表】のとおりである。

※第1回からの助成金累計

	18年度		累 計	
	件数	助成金額	件数	助成金額
医学研究助成	20件	2,000万円	735件	8億9,400万円
特別助成	3件	450万円	60件	6,300万円
合計	23件	2,450万円	795件	9億5,700万円

(3) 第37回「医学研究助成」研究報告の発表

第37回研究助成入選者の研究報告を、当事業団発行の「医学研究助成研究報告集」に掲載し発表した。

(4) 第40回「医学研究助成」(平成19年度実施)

平成19年1月、毎日新聞に募集要項を掲載するとともに、推薦依頼機関(大学・研究機関120)に募集要項・申込書類を送付し、推薦を依頼した。

第40回研究課題は次のとおり決定している。

- ①臓器線維化 ②小児肥満対策
- ③乳癌の治療 ④肝細胞癌の治療法の比較
- ⑤内視鏡下手術(切除・鏡視下手術を含む)の評価

※応募締切りは平成19年5月10日。

2. 介護分野の「調査研究業務受託」

介護分野のノウハウを生かした「調査研究業務」を社団法人シルバーサービス振興会より受託した。

- ・平成18年度テーマ：介護サービス業者の資質向上のための取り組み状況の実態に関する調査研究事業
- ・当事業団担当：各サービス分野の事業者がスタッフに実施している業務研修に関する「ヒアリング、アンケート調査、現状分析」を行い、報告書を作成した。
- ・「報告書」提出：平成19年3月末

【別表】

第39回「医学研究助成」20研究 総額2,000万円／1研究当たり100万円

- 〔研究課題〕
1. 生活習慣とメタボリックシンドローム(臨床的研究)
 2. 高齢者の骨折予防
 3. 大腸癌診療の新たな展開
 4. 医療安全の向上

(課題別申込受付順)

研究代表者	共同研究者	研究主題
徳島大学分子酵素学研究センター 助教授 小畑利之	徳島大学分子酵素学研究センター 教授 蛭名洋介 助手 湯浅智之 研究員 勅使川原匡	メタボリックシンドロームにおける血中遊離インスリン受容体(細胞外ドメイン)増加の臨床的意義
慶應義塾大学医学部 講師 尾池雄一	慶應義塾大学医学部 講師 広瀬 寛	健常人、肥満、糖尿病罹患における新規抗肥満、抗インスリン抵抗性分子AGFの血清レベルの検討とその意義解明
名古屋大学医学部 助教授 濱田洋司	名古屋大学医学部 助手 長崎 弘 助手 中島英太郎 名古屋大学大学院医学系研究科 助教授 中村二郎	食事中の飽和脂肪酸摂取量がメタボリックシンドロームに及ぼす影響について
奈良県立医科大学 講師 岩野正之	奈良県立医科大学先端医学研究機構 助教授 森 俊雄 奈良県立医科大学 教授 斎藤能彦	メタボリック症候群における心腎連関の重要性について(尿中FSPiを指標として)
久留米大学医学部 助手 田原宣広	久留米大学医学部 助手 溝口ミノリ	FDG-PETを用いた動脈硬化病変の活動性と治療効果に対する新しい判定法の開発
和歌山県立医科大学 講師 津田和志	—	メタボリックシンドロームの病態生理を細胞膜機能異常から考察する —電子スピン共鳴ならびにスピンラベル法を用いた検討—
大阪大学大学院医学系研究科 助教授 山下静也	大阪大学大学院医学系研究科 助手 平野賢一 特任研究員 松浦文彦	メタボリックシンドロームの新たな遺伝素因としてのCD36欠損症の臨床的病態の解明
北海道大学大学院医学研究科 研究支援者 絹川真太郎	北海道大学大学院医学研究科 教授 筒井裕之 浅井学園大学 教授 沖田孝一	インスリン抵抗性を基盤とするメタボリックシンドロームが運動能力へ及ぼす影響とインスリン抵抗性改善薬の効果
東京大学医学部附属病院 講師 寺本信嗣	東京大学医学部附属病院 助手 山本 寛 助手 山口泰弘	睡眠時無呼吸がメタボリック症候群へ及ぼす悪影響と鼻気道持続陽圧治療法(nCPAP)による改善効果の検討

研究代表者	共同研究者	研究主題
信州大学大学院医学研究科 講師 桜井敬之	信州大学大学院医学研究科 教授 新藤隆行	アドレノメデュリン-RAMP2システムを標的とした、メタボリックシンドローム、動脈硬化症の新規治療法開発
福島大学保健管理センター 助教授 渡辺英綱	—	メタボリックシンドローム形成要因としての生活習慣因子
鳥取大学医学部 講師 谷口晋一	名古屋市立大学 教授 竹島伸生	総合的全身運動プログラム(ウエルビクス)を用いたメタボリック症候群管理モデルの構築—地域保健資源の有効活用—
東北大学大学院医学系研究科 教授 笹野公伸	東北大学医学部 教授 鈴木 貴 教授 林 慎一 東北大学大学院医学系研究科 大学院生 三木康宏	閉経後女性の骨粗鬆症治療に向けての基礎検討：骨細胞を用いたin vitroでのSERM誘導因子の検討
神戸大学大学院医学系研究科 助手 梶 博史	—	副甲状腺ホルモンの骨形成機序と骨形成因子に関する研究
宮崎大学医学部 教授 今泉和則	—	骨粗鬆症治療を目指した生体分子の活性制御法開発
愛知県がんセンター研究所 主任研究員 近藤 豊	愛知県がんセンター研究所 部長 関戸好孝 愛知県がんセンター中央病院 医長 澤木 明	DNAメチル化異常の検出を応用した大腸がんの発がん予測マーカーに関する研究
国立がんセンター東病院臨床開発センター 部長 松村保広	国立がんセンターがん予防検診・研究センター 室長 神津隆広	便からの大腸がん細胞分離に基づく新しい大腸がん遺伝子診断法の開発
東京大学医科学研究所 特任教授 古川洋一	東京大学医科学研究所 助手 中川帯刀	日本人若年者大腸がんにおけるHNPCC関連遺伝子の解析と、遺伝情報をもとにした診療
日本大学医学部 教授 永瀬浩喜	—	大腸がん感受性の機能解析
千葉大学大学院医学研究院 助手 古屋充子	千葉大学大学院医学研究院 医員 志田 崇	高度悪性大腸癌の発生分化メカニズムに根ざした、新たな治療戦略の開発

【別表】

第15回「医学研究特別助成」3研究 総額450万円／1研究当たり150万円
 (第37回「医学研究助成」研究報告を対象)

- 〔研究課題〕
1. 前立腺癌
 2. うつ状態
 3. 成人生体肝移植
 4. 加齢に伴う関節疾患の治療法開発
 5. SARS

(課題別申込受付順)

研究代表者	共同研究者	研究主題
東京大学医科学研究所 特任助教授 服部浩一	東京大学医科学研究所 助手 Beate Heissig	ケモカインを介した前立腺癌転移機序の解明
名古屋大学大学院医学系研究科 教授 尾崎紀夫	藤田保健衛生大学医学部 教授 岩田仲生 名古屋大学大学院医学系研究科 助教授 飯高哲也 研究員 石原良子、他	気分障害のゲノム医学研究：双極性障害の病態解明を目指して
熊本大学大学院医学薬学研究部 教授 阪口薫雄	熊本大学大学院医学薬学研究部 講師 桑原一彦 中国協和医科大学 学長 Liu Depei	SARSウイルス高感度感染症検出システムの開発

※研究者の所属・職名は、第37回「医学研究助成」申込受付時による。

3. 生活習慣病集団検診

団体先の人員減により受診者数が減少し、本年度の延検診受診人員は、全検査項目（7項目）合計で、48,473名、前年度に比べ2,996名の減少となった。
（対前年 94.2%）

各項目別の内訳は次のとおりである。

<検査項目別受診人員>

（単位：名）

項目	18年度	17年度	増減
胃 部	7,744	8,369	△ 625
胸 部	10,551	11,394	△ 843
循環器	9,899	10,321	△ 422
血 液	10,636	11,528	△ 892
検 便	5,246	5,607	△ 361
眼 底	3,354	3,243	111
V D T	1,043	1,007	36
合 計	48,473	51,469	△2,996

（注）△は減を示す。

職域団体と地域団体の受診者割合は、職域 63%・地域 37%と
職域のウエイトが高い。

検診業務開始以来の延受診人員は、1,611,128名となった。

（1）検査項目別要精検率

項 目	受診者数	要精検者数	要精検率
胃 部	7,681名	997名	13.0%
胸 部	10,211	181	1.8
循 環 器	血 圧	1,116	10.8
	尿	599	5.7
	心 電 図	66	0.7
血 液	10,285	3,301	32.1
検 便	5,134	396	7.7
眼 底	3,378	803	23.8

（注）平成 18 年 1 月～平成 18 年 12 月の受診者 11,812 名を対象とする。

(2) 胃部要精検者の追跡調査結果

胃部要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。

(平成19年3月末日現在)。

①精検受診および回答状況

要精検者数	997名
精検受診回答者数	685名
精検未回答者数	312名

②精検結果の内訳

胃がん	5名(0.07%)
胃腺腫	12名(0.16%)
胃ポリープ	98名(1.28%)
胃潰瘍	111名(1.45%)
胃炎	325名(4.23%)
異常なし	134名(1.74%)
合計	685名(8.92%)

(注) 1. 胃潰瘍には潰瘍瘢痕を含む。

2. () 内は受診者総数(7,681名)に対する占率。

(3) 大腸要精検者の追跡調査結果

大腸要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。

(平成19年3月末日現在)。

①精検受診および回答状況

要精検者数	396名
精検受診回答者数	233名
精検未回答者数	163名

②精検結果の内訳

大腸がん	11名(0.21%)
直腸炎	5名(0.10%)
腺腫性ポリープ	69名(1.34%)
非腺腫性ポリープ	23名(0.45%)
その他	51名(0.99%)
異常なし	74名(1.44%)
合計	233名(4.54%)

(注) 1. その他は良性腫瘍、大腸憩室、痔疾患など。

2. () 内は受診者総数(5,134名)に対する占率。

4. 生活習慣病ガイド・介護ガイドの発行、頒布

平成18年度は改訂版2種(3,000冊)、増刷12種(17,200冊)を刊行した。
 毎日新聞(5月)・三井生命広報誌(5月・12月)にガイド案内を掲載した。
 平成18年度の頒布数は23,919冊となった。

(1) 改訂版(2種:3,000冊)

No. 45	狭心症	2,000冊
No. 48	老人性難聴	1,000冊

(2) 増刷(12種:17,200冊)

No. 2	肺がん	1,500冊
No. 3	高血圧	1,200冊
No. 5	糖尿病	1,500冊
No. 9	脳卒中	1,500冊
No. 24	甲状腺の病気	1,500冊
No. 26	更年期障害	1,500冊
No. 42	肝と胆道のがん	1,000冊
No. 53	肥満	1,000冊
No. 57	大動脈瘤とその破裂	1,000冊
No. 61	五十肩と頸肩腕症候群	1,500冊
No. 64	膀胱炎と腎盂腎炎	2,500冊
No. 68	かぜとインフルエンザ	1,500冊

(3) 頒布数

頒布先	18年度	17年度
三井生命	21,799冊	23,883冊
一般・委託	1,856冊	3,130冊
無償	264冊	49冊
合計	23,919冊	27,062冊

・昭和43年7月に第1号を創刊してからの累計頒布数は約418万冊となった。

II. 理事会、評議員会に関する事項

第147回理事会 平成18年5月22日(月)開催

- (1) 平成17年度事業報告、決算報告(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録)認定の件
原案どおり認定された。
- (2) 評議員推薦の件
神谷健一氏が4月に逝去。新たに岡田明重氏が推薦された。

第41回評議員会 平成18年5月22日(月)開催

- (1) 平成17年度事業報告、決算報告の件
- (2) 平成18年度事業計画、収支予算報告の件
(1)(2)とも全員の諒承を得た。
- (3) 理事選任の件
理事には、新たに成瀬行弘氏が選任され、大島剛氏・佐野陽子氏の2名が再任された。

第148回理事会 平成18年5月22日(月)開催

- (1) 理事長互選の件
理事長には成瀬行弘氏が選任された。

第149回理事会 平成18年11月13日(月)開催

- (1) 平成18年度上半期事業報告の件
 - ①平成18年度上半期の事業概況および収支計算
 - ②平成18年度下半期の事業および収支計算見込み全員の諒承を得た。
- (2) 第40回「医学研究助成」事業計画決定の件
原案どおり決定された。

第150回理事会 平成19年3月26日(月)開催

- (1) 平成18年度事業概況および収支計算見込み報告の件
- (2) 平成19年度事業計画および収支予算案決定の件
 - (1)については全員の諒承を得た。
 - (2)については原案どおり決定された。

III. 理事、監事、評議員の異動に関する事項

- (1) 評議員 神谷健一氏は平成18年4月11日に逝去された。
- (2) 岡田明重氏は平成18年5月22日、評議員に就任された。
- (3) 成瀬行弘氏は平成18年5月22日、理事に就任された。